

## 西遊草

安政二年（一八五五年）。山形庄内の生まれの清河八郎が、母を連れて善光寺から、伊勢参り、さらに関西、四国、中国を回って、江戸を経て帰る旅日記。

岩波文庫の『西遊草』は原文だが、東洋文庫の『西遊草――清河八郎旅中記』は現代語訳で、四月十四日に関川の関所を抜け、野尻湖に至ると水面に靄が立ち、「右の方に妙高・黒姫・戸隠の三山が連なつて時にはぼんやりと見え、あちこちの村々がもやに埋まり、朝日が昇るに従つていろいろな景色に変化し、またもやが流れて山の形、あるいは現われあるいは隠れる。」とある。